

MRAデバイスの共有回線と複数回線の有効化

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[確認](#)

はじめに

このドキュメントでは、MRAデバイスの共有回線と複数回線を有効にする方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

Cisco Expresswayサーバ
モバイルおよびリモートアクセス(MRA)

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のハードウェアやソフトウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

Cisco Unified Communications環境では、共有回線と複数回線は、ユーザが複数のコールをより効果的に管理し、コール処理の柔軟性を高めることができる機能です。MRA環境でこの機能を設定するには、Expressway CサーバでSIPパスヘッダーを有効にする必要があります。

Expressway-Cのデフォルトの動作では、SIP REGISTERメッセージの連絡先ヘッダーが書き換えられます。SIPパスヘッダーを有効にすると、Expressway-Cは自身のアドレスをパスヘッダーに

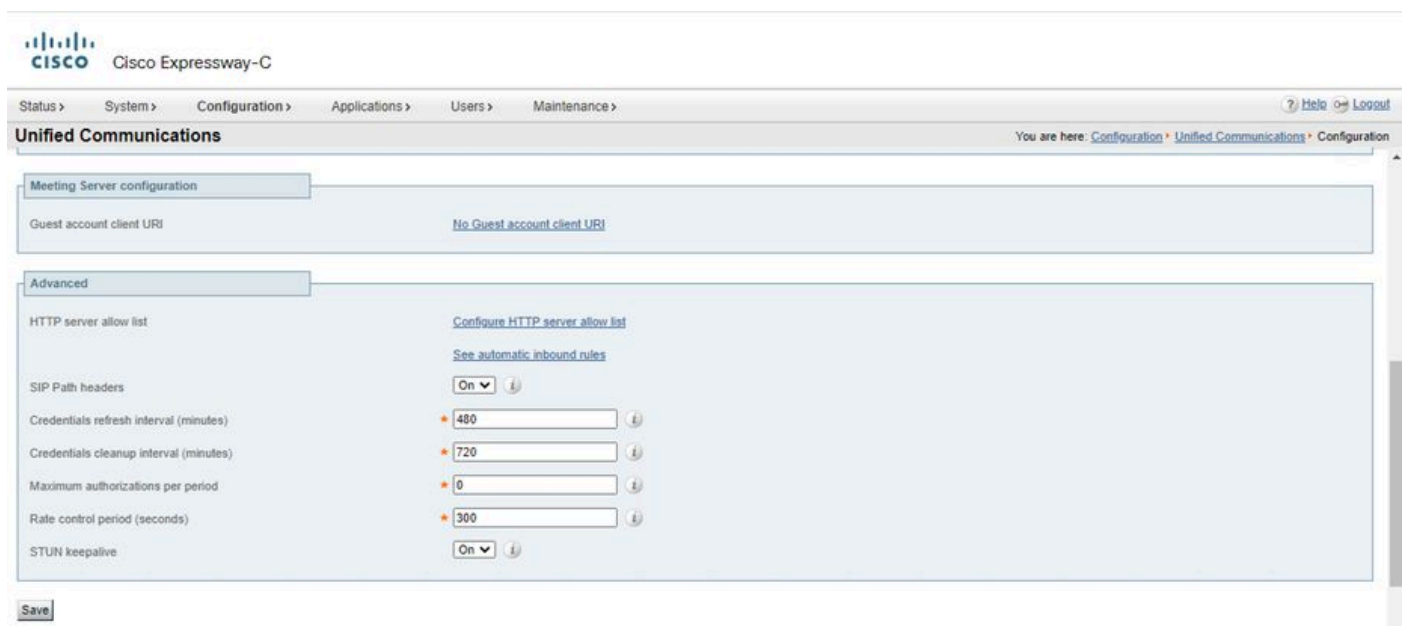
追加しますが、連絡先ヘッダーは書き換えません。この設定は、次のような一部の機能がMRAで動作するために必要です。

- 共有回線と複数回線
- BiBコール録音
- サイレントモニタリング
- キー拡張モジュール

設定

ステップ 1 : Expressway-Cで、Configuration > Unified Communications > Configurationの順に移動します。

ステップ 2 : SIP Path headersをOnに変更し、変更を保存します。



ステップ 3 : Configuration > Unified Communications > Unified CM serversの順に移動します。

ステップ 4 : Refresh serversをクリックします。

確認

MRAデバイスのアカウントからログアウトし、再度ログインして変更をテストします。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。